

読書活動推進へ向けた取組

1 学校の概要

- (1) 福島県郡山市大槻字上篠林3番地
- (2) 学級数19クラス・生徒数742人（令和4年5月1日現在）
- (3) 蔵書数31,979冊（令和3年度末 ※データ入力済みの蔵書数）

本校は文武両道の進学校として、今年度創立46周年を迎えました。各学年普通科5クラス（3年のみ6クラス）と英語科1クラスで構成されています。

2 読書活動推進の取組

- (1) 生徒が本に親しみやすく、使いやすい学校図書館環境の一層の充実へ向けた取組

図書館に入ってすぐの突き当たりに新着図書のコナーがあり、生徒はまずここをチェックします。小説を中心とした人気のある本は、帯も含めた表紙のコピーを貼付したブックカバーを装着し、内容把握に役立つ帯の情報を伝えます。このカバーは、貸出時に取り外して入口脇に掲示し、現物がなくても入荷や本の内容がわかる仕組みになっており、取り置き予約の申し込みに繋げています。そのほか、POPや時には新聞の書評を添えて、さらに興味が持てるよう工夫しています。

外部への新着図書案内では、生徒の動線となる廊下や昇降口に、本のカラー表紙をA4サイズにコンパクトにまとめたプリントを掲示しています。また、スマートフォンやパソコンからアクセスして図書館の蔵書検索ができるシステムが整っています。新着図書のリスト以外にも、特定テーマのブックリストも掲載でき、進路・学習に役立つテーマ設定で情報提供しています。時間や場所を選ばずに情報取得ができて非常に便利です。

その他の広報として、毎月発行している図書館だよりには、図書委員や県内学校司書のおすすめ本を掲載して全校生に配布しています。同時に、図書館内には図書委員のおすすめ本コーナーを作っており、手作りPOPを添えたりして、紹介した本がすぐに分かるようにしています。

図書委員の活動として、今年度も書店での選書実習を行いました。自校図書館の蔵書としてふさわしく、また貸出が見込める本を苦労しつつ真剣に選びました。

館内では、他にも季節や話題、学校行事などに合わせた展示をしており、利用者のチェックポイントとなっています。常設コーナーとしては、小論文・受験対策、探究学習関連、時事問題・社会的関心事等があり、室内前方に本を集中させて利便性の向上を図っています。

司書は日頃から質問しやすい雰囲気になるように心掛け、生徒が何か本を探している様子の時には声をかけています。見出しを充実させ、情報の古い本を除架し、公開図書の新陳代謝を図っています。

本校では、勤務時間外の管理運営をPTA雇用の司書が行っており、18時30分まで

開館できるようにしているため、生徒が放課後ゆっくり本を読んだり勉強できる、利用しやすい図書館となっています。

(2) 学校における読書を通じた読書習慣の定着を図る取組

各クラスに新聞と進路情報誌を置いており、生徒がすぐに手に取れるようにしています。特に新聞は購読していない家庭もあり、手軽に入手できるがフェイクニュースなども多いネット情報ではない、信頼のおける情報源としての価値を認識させるのに役立っています。

(3) 読書活動の質の向上へ向けた取組

今年度は1・2年生の国語科で、夏季休業の課題として「読書レポート」の提出が設定されました。自由に選んだ1冊の本を読んで、その内容・感想をA4用紙1枚にまとめます。夏季休業前に、国語の授業を活用して図書館で本を探す時間を設けました。

他にも、図書委員会の生徒が郡山市内の高校図書委員会研修組織の研修に年2回参加しており、POPの作成や読書会など行っています。他校生と本を紹介し合ったり、多面的な読み方や考え方を学んだりする機会となっています。

(4) その他、読書活動推進へ向けた取組

授業で複本が必要な場合やリクエストの本が購入できない場合などは、福島県立図書館や郡山市図書館、県南高校図書館の相互貸借を利用しています。

また、年に一度発行している図書館報「まほろば」には、着任された先生方の「読書と私」というテーマでの寄稿文、そして生徒課題「読書レポート」の優秀作品を掲載し、生徒の読書意欲を喚起するようにしています。

